

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171500846		
法人名	有限会社 ウィズ		
事業所名	グループホームウィズ七重浜 (1階よりそい)		
所在地	北斗市七重浜8丁目3番37号		
自己評価作成日	平成24年12月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成25年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当社の理念「心接介護」を掲げ、ご利用者一人一人への個別サービスに心掛けております。</p> <p>事業所としてのマニュアルは作らずご利用者様のその日の体調や気分に合わせて時間の拘束性を持たず一緒に生活しています。</p> <p>ゆっくりとまったりと、自分らしい時間が持てる様環境を整え、365日24時間の安心を提供致します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は北斗市の南部に位置している。当法人は函館市内及び近隣の町で各種介護保険事業を幅広く展開しており、毎月1回、全事業所職員による合同勉強会を実施し、サービスの質の向上に反映させると共に、人材育成に力を注いでいる。理念の「心接介護」を取り入れ、利用者の声なき声に耳を傾け、管理者と職員は利用者一人ひとりの尊厳を守り、本人本位のケアを実践している。運営者はスポーツジムと法人契約し、職員は休日には体を動かしたり、温泉に入りストレス解消とリフレッシュをしている。職員は山菜を食べたいという利用者のために、早朝より山菜獲りに出掛けることも苦にせず楽しそうに話しており、利用者は職員に見守られながらゆったりと自分らしい時間を過ごし、町内会行事には利用者・職員と一緒に参加し、地域住民と積極的に交流している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念として全事業所統一した「心接介護」を理念とし、社是を掲示し、ケアに迷った時の指針にし、取り組んでいる。	住み慣れた地域で利用者に寄り添い、「声なき声に耳を傾ける」を事業所独自の理念として、職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会のゴミ拾い、町内会のお祭り参加、運営推進会議へ町内会長参加等の活動がある。	利用者は、町内会のゴミ拾い、盆踊り、お祭りなどに職員と一緒に参加しており、散歩の時には地域の方々と挨拶を交わすのは日常的に行われ、地域との交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告、認知症についての勉強会等を通して行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見を頂き、速やかに検討し次回運営推進会議にて検討事項の報告を行っている。	2ヶ月ごとの運営推進会議は、市の担当者、包括支援センター職員、町会役員の参加があり、ビデオで日常の様子を報告したり、災害訓練の協力依頼や行事、町会の活動状況など多方面にわたり協議し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北斗市、包括支援センターとの情報交換を日々行っています。また、運営推進会議にも必ず、北斗市・包括支援センター担当者が参加して情報の共有を行っている。	市の担当者や包括支援センターとは相談事、問い合わせなど常に情報交換し、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常にリスクマネジメントを行っており安全対策を行っている。拘束は一切行っていない。	職員は、身体拘束による弊害について充分理解しており、家族にも、利用者一人ひとりを大切に、拘束のないケアを説明して安心感を与えている。職員は外部研修会や内部研修会に積極的に参加し、研鑽を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全社勉強会等で学ぶ機会を持ち、虐待については周知徹底している。また、包括支援センターと連携をとって慎重に見守り・防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全社勉強会で学ぶ機会を持ち必要な方への支援を北斗市と連携をとり行っており、実例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず利用者や家族の理解を得てから契約・解約を行っている。また、改定時は個別に訪問し、改訂箇所を説明し、納得頂いたあと再度契約書を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置いつでも投函できるようにしている。また、なんでも言っていたけよう日頃よりコミュニケーションを図っている。	家族の訪問時や家族会など、気軽な会話の中から意見や要望を聴取し、表出された課題は職員間で話し合い改善に取り組んでいる。遠方の家族には電話で様子を伝えながら意見・要望を伺い、ホームページの利用についても伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	なんでも話せるような時間を設けている。個人面談を行っている。	管理者は話しやすい雰囲気作りに配慮し、時々個人面談を実施している。職員は意見や提案は常に気軽に伝える事ができ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員の状態を把握し、行き詰まり等をなくし生き活きと仕事ができるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修へは積極的に参加できるように配慮しており、OJT制度を行い取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケアを通して同業者との交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも安心していただけるよう、利用開始前には訪問するなどして要望等を積極的に聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも安心していただけるよう、利用開始前には訪問するなどして要望等を積極的に聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談時に必要とする事を考慮したプラン作りを行っている。また、緊急時等の対応も説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭が本家で当ホームが別家の捉えで疑似家族のように取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どちらかまかせにしないよう家族とは頻りに連絡を取り合い、共に支援できるよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族が訪問したい時いつでも訪問し楽しい時間を過ごしていただけるよう努めている。	利用者の友達や近所の方々の訪問があり、関係の継続支援に取り組んでいる。洞爺丸の遭難で家族を亡くしている利用者の要望で、慰霊碑の参拝に同行するなど、状況により臨機応変に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全てにおいて職員が支援してしまうのではなく、能力を勘案し、助け合えるよう環境作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当社お祭りへの参加の連絡等、定期的に声をかけをさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でのアセスメントをし、本人と向き合いパーソソットを大切にマネージメントしている。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、理念に掲げている「心接介護」を実践し、家族からの情報を得ながら、利用者本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でのアセスメントをし、本人と向き合いパーソソットを大切にマネージメントしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式でのアセスメントをし、本人と向き合いパーソソットを大切にマネージメントしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必ず家族や関係者と相談しながらマネージメントしている。	センター方式を利用して作成している介護計画は、日々のアセスメントシートを活かし、サービス担当者会議で家族の要望やケアの方向性を検討し、職員全員が参加し意見交換して、現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はもとより、小さな変化の情報を共有し、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にこれで良いとは考えずに、より良い方法はないかと考えながら支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を北斗市・包括支援センターや他事業所より聴き、実用時支援をするよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医との関係を途切れのないようにしており、新規利用時には主治医との情報交換をしており受診への支援を行っている。	本人、家族の希望で従来のかかりつけ医の受診を支援しており、隣接の訪問看護事業所から月2回、看護師による健康管理が行われ、複数の医療機関との連携もあり、適切な医療が受けられるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名常勤しているために速やかな相談を行っている。また、常勤看護師不在時は当社訪問看護に連絡取れる事になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には同席し、早期退院に向けての相談を行っている。また長期になっても主治医・医療相談員との連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に意思確認をし主治医より病状悪化の診断が告げられた場合、本人・家族の希望に添えるよう関係者での検討会を開催している。	重度化に伴い、事業所として出来る事、出来ない事を明確にし、指針の作成をチーム全体で検討中である。	事業所として指針を明確に文書化し、家族の同意と職員間の共有を含めて、実現されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師が常勤しているため日頃より訓練している。緊急時マニュアルあり。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っており、地域への協力依頼も運営推進会議の時発信している。	年2回、消防署の協力で日中と夜間を想定しての訓練を実施している。避難誘導については細部にわたり訓練を重ねている。通報訓練は近くに住む職員と近隣住民との協力体制を整え、訓練終了後は、消防署の評価、指導を受けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切に言葉かけや対応をしている。	利用者の写真の使用、本人が希望する呼び名など、家族の同意を得て支援をしている。個人情報に関する内部研修を実施し、利用者の尊厳を大切に職員は日々取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適切な判断が困難になっても決定はできる事を周知しており、意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設のマニュアルはなく、個別ケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族と相談しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力を勘案し、職員と一緒に準備や片付け、食事をしている。	管理栄養士が献立を作成し、個々の状況に応じてきざみ食などを取り入れている。回転寿司などの外食もあり、管理者が握り寿司やラーメンを提供するなど、楽しい食事に配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の病状も考慮し、管理栄養士による献立を使用し、食事量や水分量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後直ぐではなく本人のペースに合わせて口腔ケア支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンのアセスメントをとり、本人に合わせて排泄支援を行っている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導をしている。失禁が多い利用者がトイレのドアに「べんじょ」と張り紙したらトイレ使用が可能となった事例があり、その人に合った方法を検討し、自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を行いながら、便秘だからと直ぐに薬に頼るのは水分や運動への取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めておらず、本人の馴染みの時間や希望に沿って支援している。また、入浴を拒否した場合無理強いせず、気持ちよく入浴できるよう検討している。	週2～3回の入浴は入浴剤を変えたり、夜間入浴のために職員の配置を工夫するなど、希望に合わせて支援をしている。介護度が高い利用者のために、寝ている状態で使用できるシャワーチェアを取り入れ、気持ちよく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自分の居室に戻り休息できるよう支援している。また、馴染みの寝具を使用しているため安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が常勤しているため看護師より指導を受け服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味活動ができるよう家族と連絡をとりながら行っている。また、職員との外出の機会を多く取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々行きたい場所への支援をしており、紅葉狩りや外で焼肉パーティーを行っている。また近隣の買い物や散歩時には地域の方々も声をかけてくれ立ち話になる事もある。	季節と天候に合わせて遠出のドライブ、近隣の散歩、家庭菜園、ひょうたん池の金魚に餌を与えたり、喫茶店に行くなど、個々の要望により臨機応変に支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が金銭を所持する事を禁止しておらず、いくら持っているのかを家族と連絡をとり把握できるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと訴えがあったら、電話できるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた飾りを行い季節感を演出しています。不快のないよう常に利用者目線に対応している。また、利用者が心地よく過ごせるよう検討もやっている。	各ユニット共通している長い廊下は、職員が居室を見渡すことが出来る造りで、利用者の身体機能低下防止にも役立っている。ペットの小型犬「ごん」や熱帯魚が心を和ませ、居間の大型テレビの他に、個々に好きな番組が見られるようテレビとソファが用意されており、明るく、清潔感のある共有空間である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に談話スペースを設け、いつでも利用できるよう空間作りをしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの寝具・家具を持ち込んでいただくよう伝えており、希望の方は持ち込んでいます。	本人の目の高さに合わせた居室入口の表札と、在宅当時と変化がないように畳を敷き詰めたり、家族の写真と職員の結婚式と赤ちゃんの写真も飾られている。位牌に毎朝ご飯を供えて手を合わせる利用者など、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置やトイレ、洗面所等障害等を想定し設計している。			